

共に高め合う生徒の育成を目指して —3学年修学旅行、2学期の授業から—

研究主任 吉國 京子

「時間がないって！もう一度やってみようよ！」どの生徒も明るく、真剣な表情そのもの…！それぞれが試行錯誤し、積極的に意見を交わし合い、自分たちの力で1つのゴールに向かって活動する姿…。これは、10月に行われた、3学年の修学旅行中の「チームビルディング」というアクティビティの一場面です。1つのフラフープを、チームの全メンバーの一人一人が1本の指に乗せ、静かに地面に着地させるという、一見簡単そうに感じるミッションなのですが、それが本当に難しいのです。結局、ミッションは達成できずに終わりましたが…爽やかな秋晴れの長野の山中で、生徒たち一人一人が生き生きと輝く姿を見ることができました。



「チームビルディング」とは、各自のスキルや能力、経験を最大限に発揮し、目標を達成できるチームを作り上げていくための取組を指し、一人では達成できないような目標をチームで達成することが目的です。社会が大きく変化する昨今、複雑な問題や課題を解決すべく組織の成果を最大化するための手法として、企業や学校等で現在大変注目を集めています。本校は、今年度、主体的な学びを導く活動を通して、学ぶ意欲をもち、高め合う生徒を育てるための研究を重ねてきました。この「チームビルディング」の発想は、参考になる点が非常に多く、今後、さらに学校の諸活動で取り入れていきたいと考えているところです。



2学期、各教科の授業においてより一層生徒同士の「教え合い、学び合い」を中心とした授業を展開し、その充実を図りました。3学年の英語科では、今年度の始めから授業は終始4人グループの形態で行っています。生徒たちは、授業で与えられた課題を基本的にグループで解決しています。「私の板書」というグループ活動では、一人一人が自分の書いた板書で班員に授業をします。それぞれが事前に理解をした上で、友達に自分の言葉で説明するため、生徒たちは一生懸命家で学習し、準備をします。グループワーク

を取り入れた授業では、それぞれのグループ内で個別学習が行われているので、たとえ、習得に時間がかかる生徒がいても、メンバーの助けを借りながら、全員が取り残されることなく学ぶことができると言えます。また、教科書の内容把握も基本的に全てグループ単位で行っているため、今年度は特に、生徒の予習率が大幅にUPしたように感じます。

今後の生徒の人生において、困難な問題や課題に対し、他者との対話を通し、助け合いながら協働して解決していく力は大いに役立つでしょう。学校が、その力を育む場となればと願っています。

